

2 「安全管理重点営林署」の 指定返上に向けて

金木営林署

中村 信行

伊丸岡 輝英

1 はじめに

金木営林署管内は、津軽背梁山脈の岩木川に面する部分に位置し、600m前後の山が連なり、起伏の多い地形となっている。

管内の森林は、青森ヒバを主とする天然林で、今年度は定員内職員32名、定員外職員57名で製品生産事業、造林事業他を実行している。

2 活動の方針

さて、私達は平成5年度事業実行を開始するに際し『安全管理重点営林署』として局管内8署の中の1署に指定されてのスタートとなったが、この指定を一年で解除するため、諸通達等に基づき、「平成5年度金木営林署安全衛生管理計画」を策定して自主積極的な安全対策の強化を図り、事故及び災害の未然防止に努めることにした。

今年度の計画を策定するに当たっては、第一に当署におけるこれまでの公務災害の実態を調べ、そのデータを分析して今年度の安全活動に生かすこと、第二にこれまでの安全活動を反省した上で、新たな観点からの安全活動を展開することを重点として取り組むこととした。

まず、第一の取組については、過去の災害を昭和32年までさかのぼり調査したところ、無災害の年は一度もなく、しかも公務災害件数が27件という年があることがわかった。

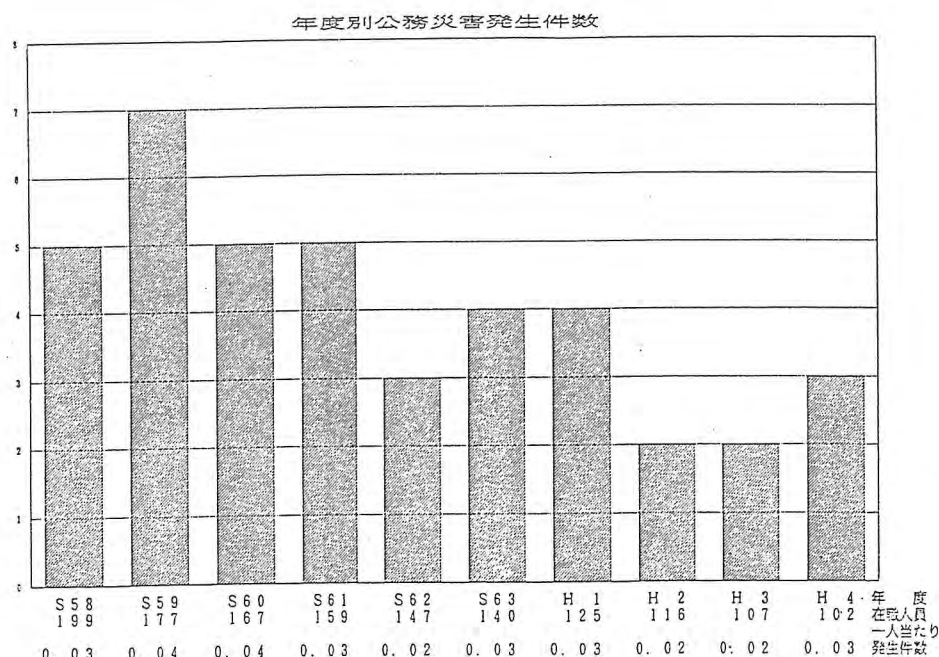


表-1

次に過去10年間の公務災害件数及び原因別の割合を調べたが、昭和58年からの件数は表-1のとおりである。

また、原因別では表-2のとおり転倒8件 20%、はね返り8件 20%、材の転動・滑落7件 17%などとなっている。

また、部位別の割合は図-1のとおり上肢部9件 23%、下肢部13件 33%などであり、下肢部の災害がトップを占めていることがわかった。

次に、第二の取組については、当営林署においてもこれまで各種の安全活動に取り組んできたが、過去十年間の年平均公務災害件数が4.1件という高発生率が続いていること、また、今年度の安全管理重点営林署の指定という事態に、今年度はこれまでの安全活動に、次のような新たな活動を加えて、各人の安全意識の高揚を図ることに重点を置くこととし、更には各班独自に行って効果をあげている安全活動で、他の班に推奨して活用させるものなどの、掘り起こしをすることにした。

3 今年度の新たな活動

まず、生産事業においては、伐倒作業時、作業手順どおり行われているか伐根調査を2回行った。

1回目の調査では ①受け口の水平切りは適切に行われているものの ②受け口の斜め切りが浅いため ③つるが正常に残らないものがあり、現場において全員で議論して是正した結果、2回目の調査では1回目で指摘された事項は見受けられなくなった。また、複数のクサビを使用するようにするため、2個のクサビをヒモでつないで携行し、それを確実に使用するよう徹底した。

公務災害の原因別割合
(S58~H4)

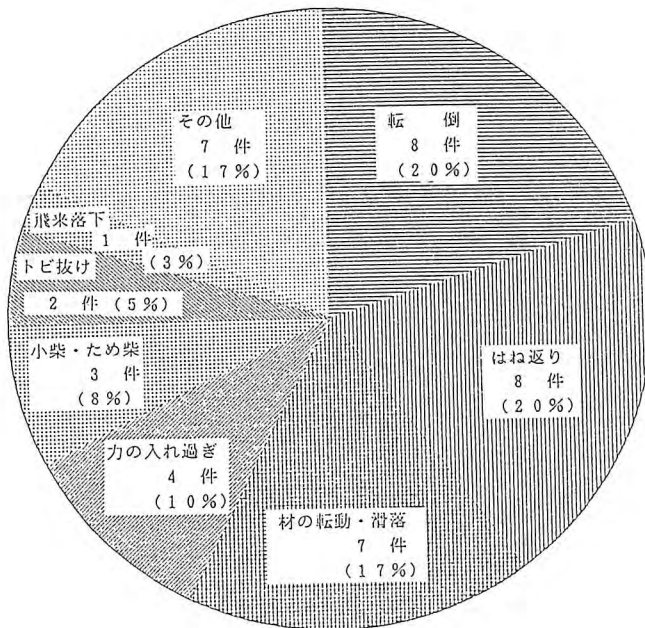
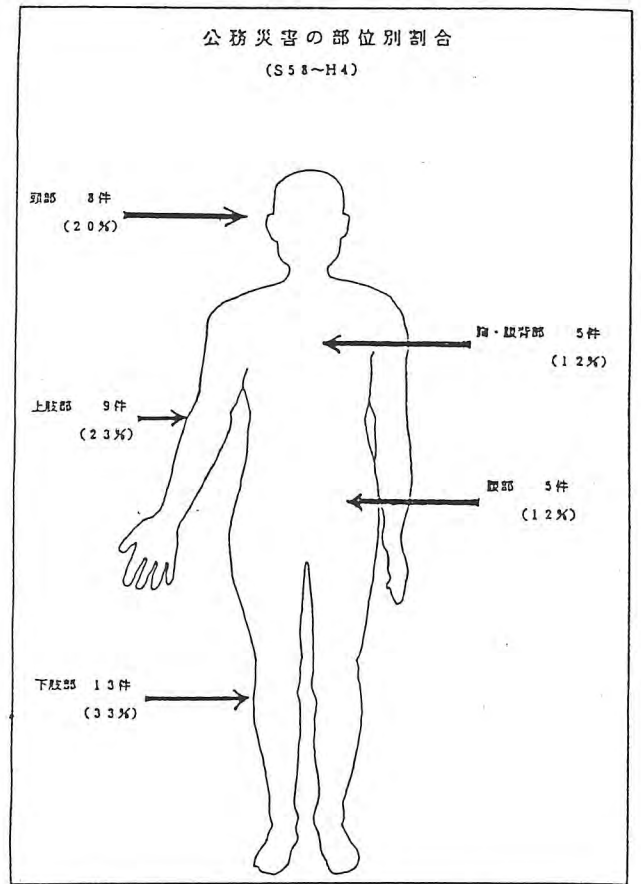


表-2

土場作業では、過去に丸太が転動して重傷を負う災害があったことを反省し、丸太止めを2箇所から6箇所に増やして安定を図るとともに、作業者間の連携を密にして安全確保に努めた。また、連絡合図の徹底や上下接近作業の禁止等についてもお互いが心置きなく注意し合うことにした。



☒
|
1

造林事業においては、作業箇所が変わるたびに事前に歩道等の危険箇所を点検し、危険箇所には歩道脇に注意を喚起する標識を設置した。



写-1

現場職員自らが作り、自分たちの作った標識を毎日確認しながら上下山し、歩行時の危険を排除するようにした。（写-1・2・3）



写-2



写-3

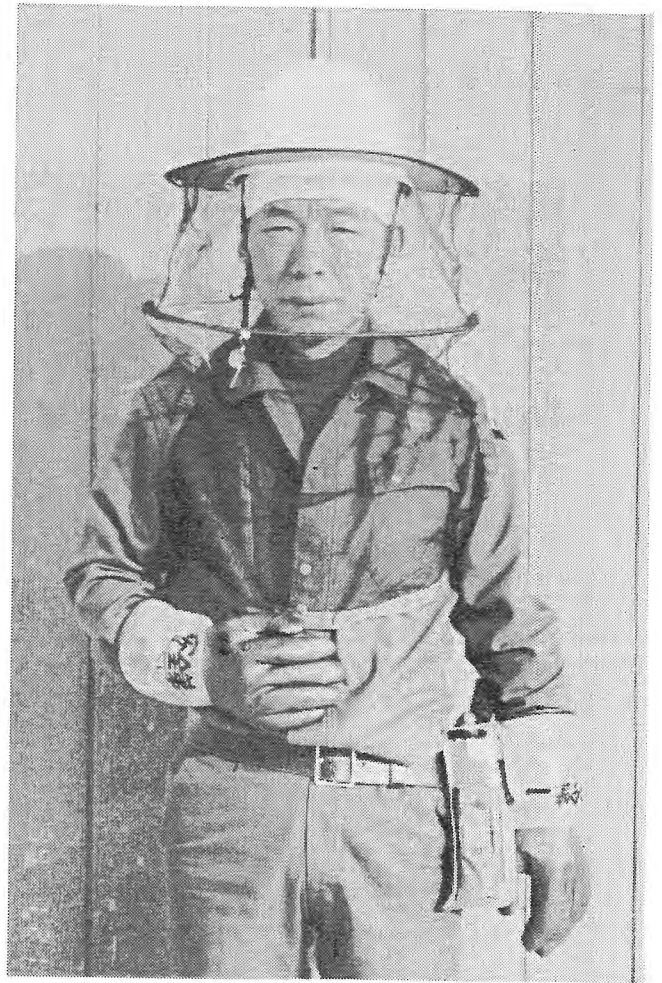
作業手袋の甲の部分には緑十字を書き入れ、常に安全を意識しながら作業が出来るよう工夫した。

(写-4)

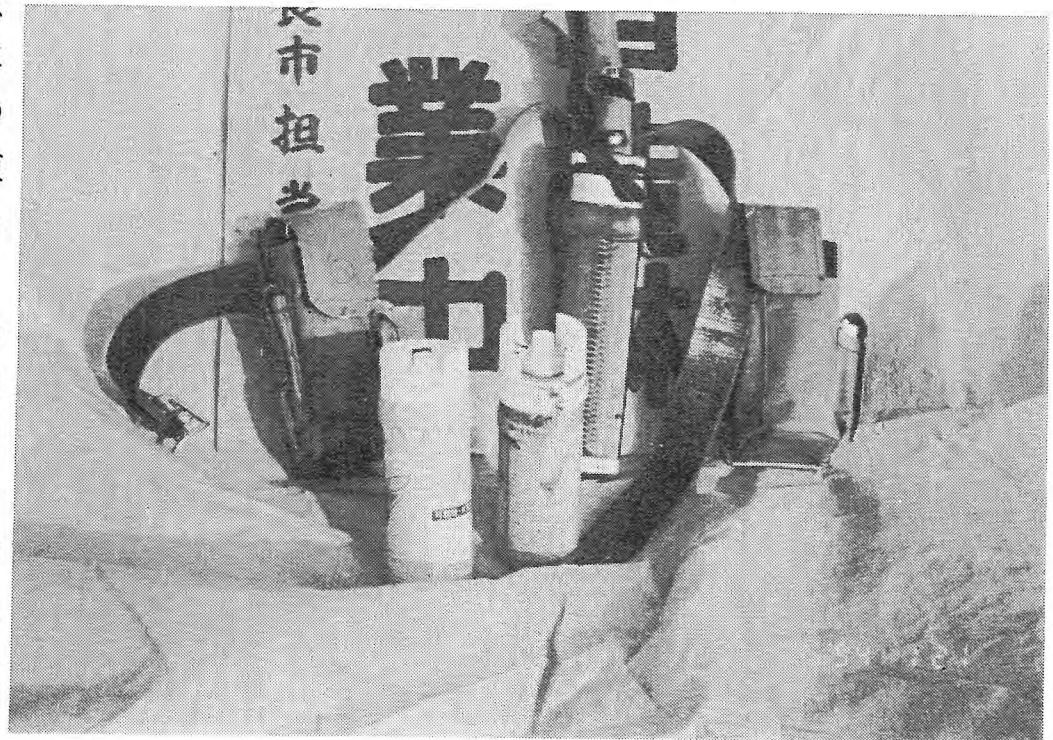
器具類の改良については、以前に防蜂網を着用しないで作業中、蜂に顔面を刺され2～3分で意識をなくする程のショックを受けた職員があり、幸いにも一命を取り留めた経験と、防蜂網を着用すると作業しづらいとか、不快だとのことで着用が必ずしも全員に守られなかったことを反省して、防蜂網の中段にビニールで覆った針金をリング状に通して顔面への付着を改善し、完全着用を定着させた。(写-4)

また、蜂刺され防止の手段である誘引捕殺剤の設置も4月中旬から行って、女王蜂の捕殺に努め、夏場の働き蜂の繁殖を阻止するようにした。

救急薬品の収納袋も、携帯し易いサイズ、身体にフィットする形状に作りかえた。

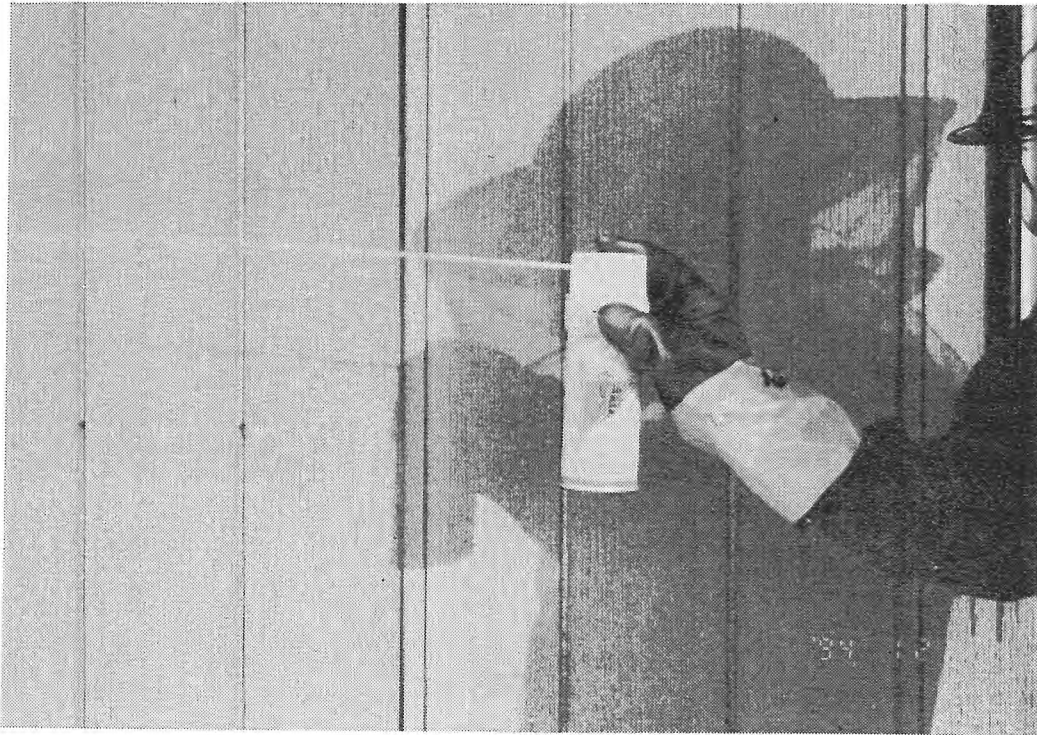


写-4



写-5

蜂ノックスプレーも、蜂の襲来時、キャップをはずして噴霧していたのでは間に合わないことから、キャップに人差し指を入れる箇所と噴き出し口をカットし、キャップを取らずに瞬時にスプレーができるよう工夫した。これは、カラーペンキ・スプレーにも応用し、収穫調査時のスプレー口の脱落防止にも役立っている。（写-5・6）



写-6

その他、安全日誌を現場職員が記載しやすいよう様式の改正を行っているほか、タッチアンドコール、ヒヤリ・ハットの活用、ミーティング、林業体操の励行に心掛けるなど従来に増して一味違った安全活動を展開してきた。

また、安全管理者等においても定例出署日における安全管理者会議の開催や事業開始時等節目々々の安全指導、その他休憩場等の環境整備、車両の点検整備、交通事故防止及び健康管理対策等を講じてきた。

4 活動の成果

現場職員を中心に一人一人の安全意識が大きく盛り上がるとともに、「決められたことはキチンと守る」との認識がより強くなり、保護具の完全着用、作業基準・手順の遵守などが以前にも増して確実に行われるようになり、チームワークをもって事業に取り組み、昨年2月10日の公務災害を最後に現在のところ無災害を継続している。

各班においても班長、安全推進員を中心に、安全作業・無災害の尊さ、重さを改めてかみしめ、そして災害のない毎日を同僚とともに喜び合いながら作業に従事している。

5 おわりに

今後においても事業の完遂とともに、安全活動をマンネリ化させないよう、全職員が一丸となって活動の創意工夫に取り組み、この無災害を一日々と積み重ね、継続していくよう努力したいと考えている。

そして、安全管理重点営林署の指定が一日も早く解除されることを願って。